

## 大研医器 (7775)

通期(単体) (百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS (円)	DPS (円)	BPS (円)
FY03/2022		8,540	1,150	1,152	831	28.93	20.00	224.13
FY03/2023		9,137	1,054	1,053	712	24.79	20.00	228.91
FY03/2024会予		9,600	1,300	1,300	900	31.33	20.00	-
FY03/2023	前年比	7.0%	(8.4%)	(8.6%)	(14.3%)	-	-	-
FY03/2024会予	前年比	5.1%	23.3%	23.4%	26.4%	-	-	-
四半期(単体) (百万円)		売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	EPS (円)	DPS (円)	BPS (円)
1Q FY03/2023		2,196	288	288	202	-	-	-
2Q FY03/2023		2,258	317	316	226	-	-	-
3Q FY03/2023		2,441	364	363	258	-	-	-
4Q FY03/2023		2,240	84	84	23	-	-	-
1Q FY03/2024		2,361	339	341	244	-	-	-
1Q FY03/2024	前年比	7.5%	17.8%	18.7%	21.0%	-	-	-

出所: 会社データ、弊社計算

## 1.0 エグゼクティブサマリー (2023年9月27日)


## 成長戦略

病院内感染防止や術後疼痛管理などに用いられる医療機器(ディスプレイ製品売上高構成比概ね85%ほど)の研究開発・製造・販売を展開する大研医器は、中長期的にも持続的な成長を達成していくことを計画している。成長戦略として挙げられているのは、1) 国内における横展開の推進、2) 海外市場への進出、3) キーデバイスをを用いた糖尿病治療への新規参入、以上である。一方、現状に至る経緯において同社が示唆している業績目標(開示: 2021年12月24日)においては、2027年3月期に対して売上高11,000百万円、経常利益1,800百万円を達成することが掲げられている。2023年3月期の実績を起点とした場合の年平均成長率は、売上高で4.7%、経常利益で14.3%である。ただし、上述の成長戦略による寄与はほとんど織り込まれていない模様である。例えば、成長戦略「2) 海外市場への進出」に関しては、注入器関連の新製品「クーデックエイミーPCA」を欧州に投入することが計画されているのだが、現状においては、現地での発売開始に向けてMDR(Medical Device Regulation: 欧州医療機器規則)の認定を取得する過程にあり、現地での販売チャネル構築に向けても準備段階が引き続いているとのことである。即ち、中長期的な業績目標に対してこういった成長戦略による定量的な寄与を具体的に織り込むにはいましばらくの時間を要するとされている。

IR担当: 財務経理部長 中沢 雅宏 (06-6231-9917 / [m-nakazawa@daiken-iki.co.jp](mailto:m-nakazawa@daiken-iki.co.jp))

## 2.0 会社概要

### 医療の未来に革新を

商号	大研医器株式会社 <a href="#">Web サイト</a> <a href="#">IR 情報</a> <a href="#">最新株価</a>	 医療社会を未来する—— <b>大研医器株式会社</b>
設立年月日	1968 年 11 月 5 日	
上場年月日	2023 年 10 月 20 日（予定）：東京証券取引所スタンダード市場 2022 年 4 月 4 日：東京証券取引所プライム市場（証券コード：7775） 2010 年 10 月 13 日：東京証券取引所第一部 2009 年 3 月 12 日：東京証券取引所第二部	
資本金	495 百万円（2023 年 6 月末）	
発行済株式数	31,840,000 株、自己株式内数 3,111,561 株（2023 年 6 月末）	
特色	<ul style="list-style-type: none"><li>● ディスポーザブル製品を中心とする研究開発型医療機器メーカー、</li><li>● 病院内感染防止や術後疼痛管理などの最先端分野における新製品の開発に意欲</li><li>● 吸引器関連と注入器関連が二本柱</li></ul>	
セグメント	医療機器等の製造販売及びこれらの付随業務	
代表者	代表取締役社長 山田 圭一	
主要株主	山田 圭一 20.75%、山田 満 13.92%、山田 雅之 10.89%、日本マスター信託口 4.83% （2023 年 3 月末、自己株式を除く）	
本社	大阪府和泉市	
従業員数	単体 185 名（2023 年 6 月末）	

出所：会社データ

### 3.0 経営理念

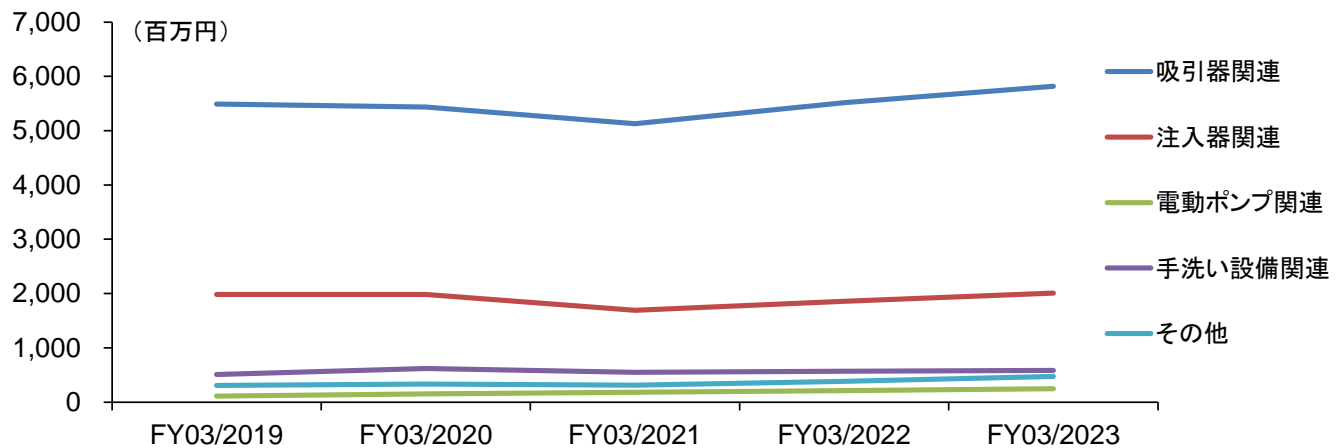
#### 医療の未来に革新を

同社は、同社の事業展開を通して「医療の未来に革新をもたらしていきたい」としている。代表取締役社長である山田圭一氏によれば、「医療を次の時代へと進化させ少しでも多くの患者さんの願いに応えていきたい」とのことである。経営理念（社是）としては、「我々は現在の医療を見つめ明日の医療の創造を通して社会に貢献します。」が掲げられている。また、企業ビジョンとしては、「Upward Spiral of Value Creation／製販一貫がもたらす、医療現場との“価値創造スパイラル”」が掲げられている。

#### 研究開発センター（大阪府和泉市）



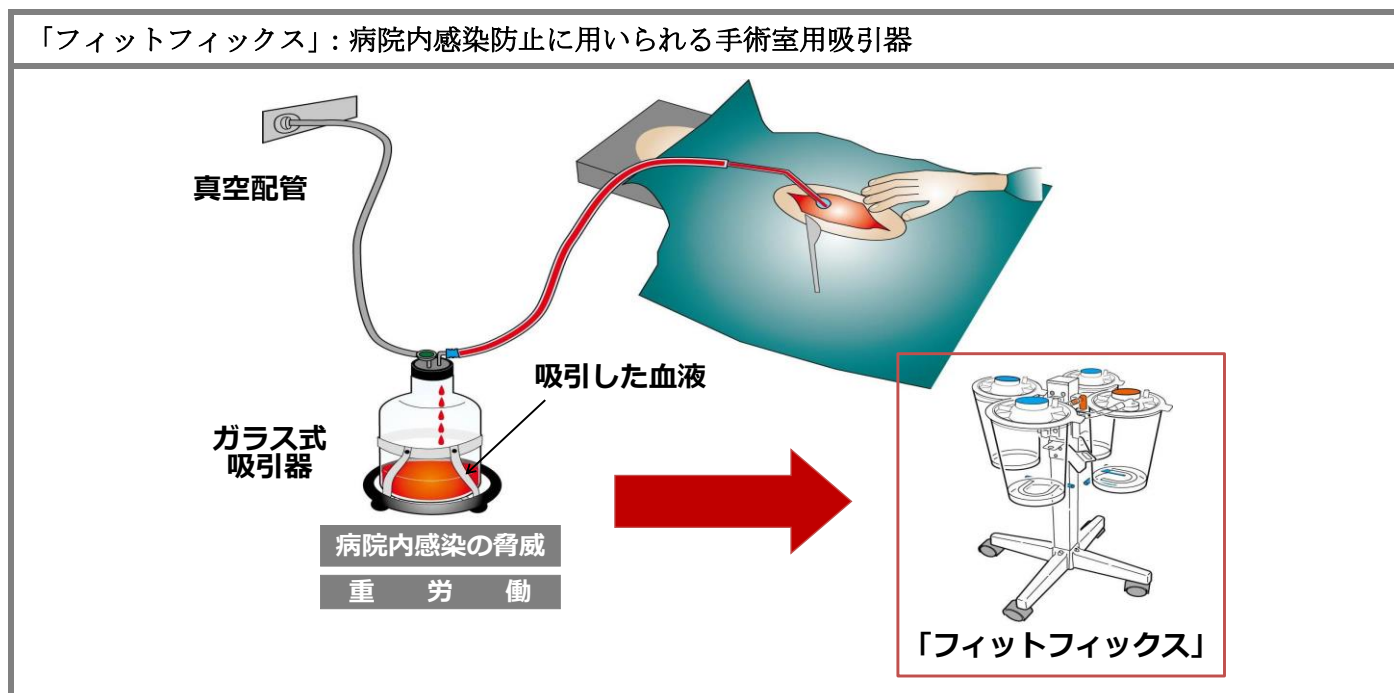
#### 製品群別売上高



出所：会社データ

なお、「大研医器」という社名には、「大きく、大いに研究し、オリジナリティ溢れる医療機器を作りたい」という思いが込められている一方、同社の製品ブランド名である「COOPDECH（クーデック）」は、クーデター バイ テクノロジー（Coup d'Etat by Technology）という意味を持つ同社の造語であり、独創の技術でドラステックな医療革命を目指すという思いが込められているとのことである。

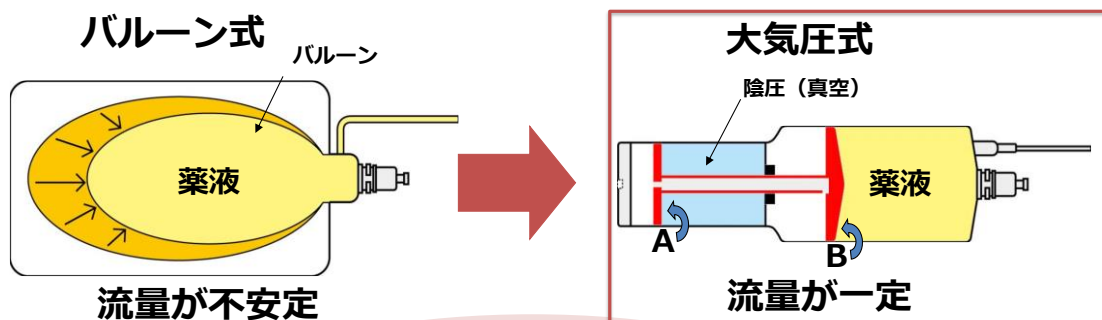
1968年11月5日に設立されている同社は、1990年9月、病院内感染防止に用いられる手術室用吸引器「フィットフィックス」の販売を開始している。また、これをもって上述の経営理念の実践が本格的に始まっているのに引き続いて、1997年4月、同社は、術後疼痛管理に用いられる持続注入器「シリンジェクター」の販売を開始している。そして、両者が現在の同社の事業展開における二本柱の礎を築いている。即ち、吸引器関連と注入器関連である。また、現状における吸引器関連においては、病棟用吸引器「キューインポット」が「戦略製品1」として位置付けられている一方、注入器関連に属する、マイクロポンプを搭載した新型薬液注入器「クーデックエイミーPCA」が「戦略製品2」として位置付けられている。



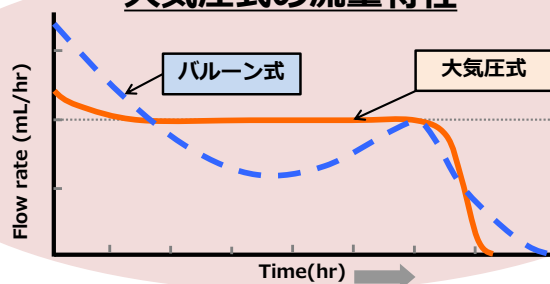
出所：会社データ

主力の吸引器関連の礎となっている「フィットフィックス」は、従来からの（リユースを前提とする）ガラス式吸引器を代替しており、現状に至る経緯において当該領域における市場を席卷しているとのことである。同社の特許は既に切れているのだが、現状においても国内での当該領域における市場占有率が80%近くにも及んでいるとされている。病院での手術の実施に際して吸引される血液などの廃液処理は、従来、ガラス式吸引器に収めて行われていたのだが、その過程においては、病院内感染の脅威が否定できない側面が認められたことに加えて、看護師などによる（廃液で満たされた重量のあるガラス式吸引器の運搬などに伴う）重労働を必要とする側面も認められたとのことである。一方、これに対してソリューションを提供したのが「フィットフィックス」である。ここでの仕組みにおいては、血液などの廃液を凝固させて、ディスポーザブルで軽量のプラスチック製のボトルに収めることが可能となったとのことである。また、その後においては、凝固した廃液が収められているボトルを、単純にボトルごと焼却炉で焼却することで処理が完了するとのことである。そして、以上をもって、病院内感染の脅威が低減されていると同時に看護師などによる重労働の負担も低減されているとのことである。

## 「シリンジクター」：術後疼痛管理に用いられる持続注入器



### 大気圧式の流量特性



出所：会社データ

一方、注入器関連の礎となっている「シリンジクター」は、術後疼痛管理に用いられるディスプレイな持続注入器であり、手術後の患者における術後疼痛を管理するために PCA 装置（これもディスプレイ）と併せて用いられている。なお、「PCA (Patient Controlled Analgesia)」に相当する日本語としては、「患者管理無痛法」、「自己調節鎮痛法」、「PCA 療法」などが挙げられている。即ち、「シリンジクター」とは、手術後の患者が術後疼痛を和らげることを目的として自らの体内に鎮痛剤を持続的に投与するための注入器のことなのだが、大きな特徴として挙げられるのは、術後疼痛が強まった際には自身の判断で併せて用いられる PCA 装置を操作することをもって、静脈内、皮下または硬膜外腔などへの、あらかじめ設定された鎮痛薬の投与量を引き上げて経常的な鎮痛を得られる仕組みが採用されていることである。

「シリンジクター」における同社は、従来からの「バルーン式」ではできなかった、薬液の流量特性の引き上げを実現している。「バルーン式」においては、膨らませたバルーン（風船）が自律的に萎む作用を駆動力としていることから、時間の経過に伴う薬液の流量における振れが不可避なのだが、同社は、大気圧を利用した原理に基づく「大気圧式」の駆動方式を独自に開発して、薬液の流量における安定性が高い製品を市場に投入している。

そして、更なる医療の革新を目指す同社が現状において新たに取り組んでいるのが、最近になって開発された「クーデックエイミーPCA」の拡販である。上述にある同社が開発した「大気圧式」の「シリンジクター」が術後疼痛管理の用途を中心とした展開に留まっているのに対して、「クーデックエイミーPCA」においては、多種多様な薬液を注入できるという特徴を活かした事業展開の広がりが期待できるとのことである。

なお、「エイミー (AMY)」という名称は、同社による擬人化 (personification) に基づいている。米国やカナダにおける一般的な女性のファーストネームのひとつなのだが、そもそもは、ラテン語の「amandus (愛されるに値する)」の女性形である「amare」から派生している。即ち、同社は、「クーデックエイミーPCA」が医療の現場で広く遍く愛されるに値する存在になるよう育てていきたいと考えている模様である。

同社は、強力な研究開発体制の活用をもって中長期的な観点においても医療の現場における革新を推進していきたいとしている。具体的には、同社の優秀な研究者が有力な医師のとのパイプを最大限に活用し、医療の現場におけるニーズの抽出や課題解決に取り組んでいるとのことである。例えば、同社は、成長戦略「3) キーデバイスを用いた糖尿病治療への新規参入」に向けての基礎研究投資を積極的に進めているとされている。

同社が示唆するところによれば、2023年3月期の実績における注入器関連の売上高が2,008百万円であるのに対して、糖尿病治療に用いられる、いわゆるインシュリンポンプの国内における市場規模は30,000百万円を超過しているとのことである一方、同社独自のキーデバイスであるマイクロポンプの応用をもってすれば、中長期的な観点において競争力が高い新製品を当該市場に投入することが可能となる見込みとされている。なお、実際の投入に向けては、少なくとも3年以上に及ぶ時間を要する模様である。

### 沿革（抄）

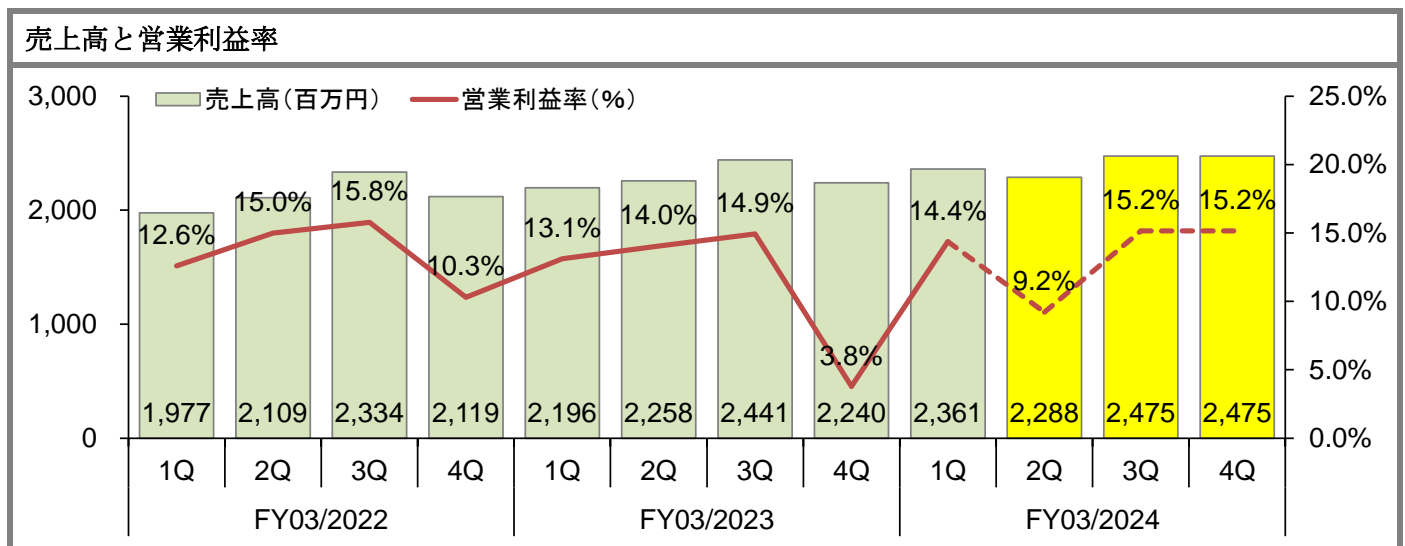
年月	概要
1968年11月	医療器具製造販売を目的として、大研医器株式会社を大阪市北区木幡町（現大阪市北区西天満）に設立
1971年7月	医療機器の製造業許可を取得
1990年9月	医療用吸引器「フィットフィックス」の開発・販売
1997年4月	携帯型ディスプレイ注入口「シリンジェクター」の開発・販売
1999年10月	大阪府和泉市に本社機能を移転、研究棟・アセンブリーセンターを新設
2007年5月	大阪市中央区に本社機能を移転
2009年3月	東京証券取引所市場第二部に上場
2010年10月	東京証券取引所市場第一部に指定
2017年7月	大阪府和泉市に和泉アセンブリーセンターを増設
2019年6月	大阪府和泉市に本店移転
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からプライム市場に移行

## 4.0 業績推移

### 2024年3月期第1四半期

2024年3月期第1四半期は、売上高2,361百万円（前年同期比7.5%増）、営業利益339百万円（17.8%増）、経常利益341百万円（18.7%増）、四半期純利益244百万円（21.0%増）での着地である。また、売上総利益958百万円（4.8%増）、販売管理費618百万円（1.2%減）であり、売上総利益率40.6%（1.0%ポイント低下）、売上高販売管理費率26.2%（2.3%ポイント低下）である。結果、営業利益率14.4%（1.3%ポイント上昇）である。

一方、2024年3月期に対する会社予想では、売上高9,600百万円（前年比5.1%増）、営業利益1,300百万円（23.3%増）、営業利益率13.5%（2.0%ポイント上昇）が見込まれている。第2四半期累計期間に対する会社予想との比較における第1四半期の実績は、売上高の進捗率にして50.8%、営業利益の進捗率にして61.7%と、表面上においては損益面において上振れた着地となっているとも考えられる。ただし、費用の拠出が遅れている側面もあるとのことで、実質的な側面における2024年3月期は、会社予想の前提との比較において概ね想定通りの業績推移をもって始まっている模様である。

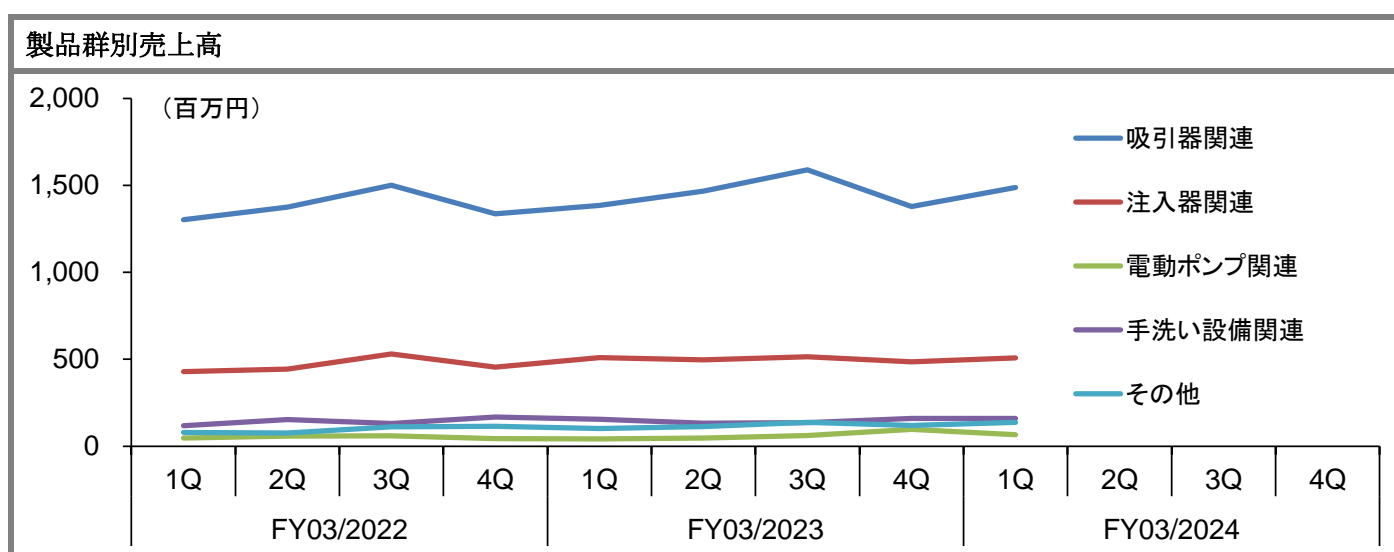


出所：会社データ、弊社計算（2024年3月期2Q：第2四半期累計期間に対する会社予想から1Q実績を控除／3Q及び4Q：下半期に対する会社予想を均等に按分）

2023年3月期第4四半期の実績においては、損益が大幅に悪化する局面が発生しているのだが、上述の2024年3月期第1四半期の実績に鑑みれば、この損益の悪化は一過性の要因によるものであったことが明らかである。当該期間においては、棚卸資産の滞留に伴う評価損172百万円が計上されており、この分だけ原価率が悪化している。背景として挙げられているのは、既存の「フィットフィックス」に代わる（コスト競争力に優れた）次世代製品として開発され市場に投入された「バイロン」の売上高が伸び悩んだことである。現状における同社は、より市場のニーズに適合した特性をもつ、改良版の「バイロン」の開発に注力しており、改めて、既存の「フィットフィックス」から次世代製品への移行を試みている。

同社が示唆する 2024 年 3 月期第 1 四半期における経常利益の増減分析によれば、販売数量の増加などに伴い純増 97 百万円、その他原価増加等で純減 53 百万円、販売管理費等減少で純増 9 百万円とのことである。同社としての販売数量の増加に関しては、病院内感染防止などに用いられる、主力の吸引器関連に対する需要が堅調に推移したことが大きく寄与している模様である。一方、海外の委託先で製造されている吸引器関連の製品においては、円安の進行に伴う仕入れ単価の上昇を余儀なくされたとのことで、これが原価の増加に大きな影響を及ぼしているとされている。

同社においては、販売単価への転嫁を進めていることに加えて、海上輸送費が落ちつき始めていることによる原価の低減も発生しているのだが、第 1 四半期においては仕入れ単価の上昇を十二分に補うまでには至っていないとのことである。ただし、同社においては販売数量の増加などによる寄与がより大きく、売上総利益の絶対額は前年同期に対して増加している。なお、販売管理費がやや減少していることに関しては、第 1 四半期において拠出する予定であった研究開発費の一部が、第 2 四半期にズレ込んでいることによる影響が大きいとされている。



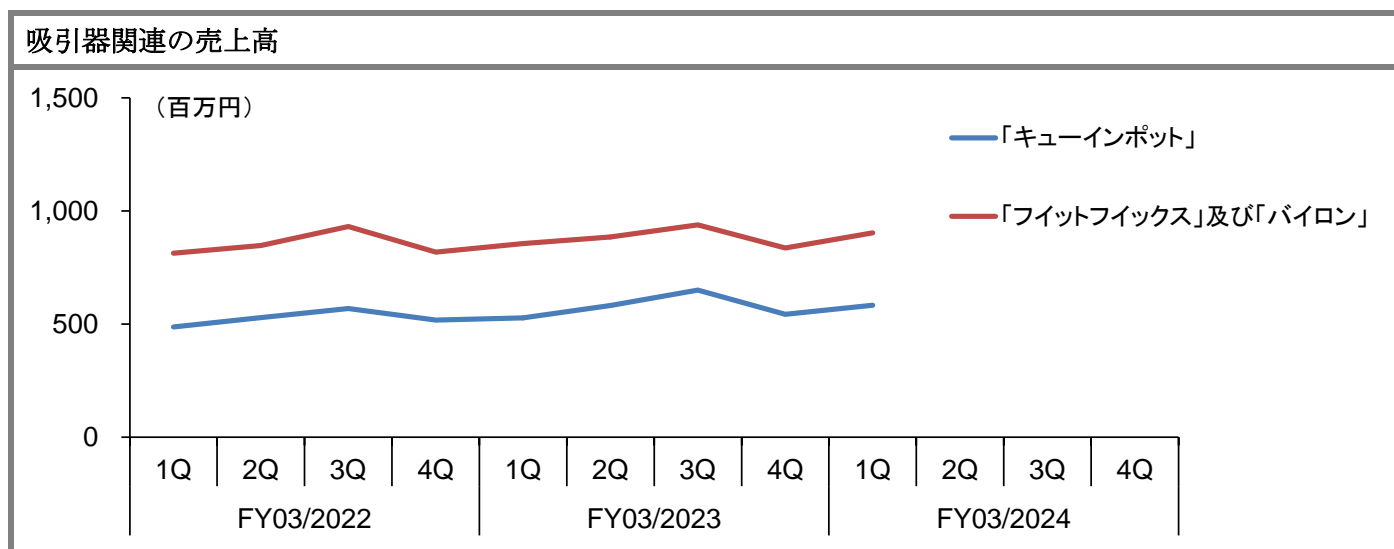
出所：会社データ

上述にある通り、第 1 四半期の実績においては、売上総利益 958 百万円 (4.8%増)、売上総利益率 40.6% (1.0%ポイント低下) での着地である一方、吸引器関連及び注入器関連の合算で売上高構成比 84.5%である。同社としての売上総利益においても両者の合算がかなりの部分を占めるとされている。なお、吸引器関連の売上総利益率は注入器関連の売上総利益率をやや上回っている模様である。



## 吸引器関連（売上高構成比 63.0%）

第1四半期において売上高 1,488 百万円（7.4%増）での着地である一方、2024年3月期に対する会社予想では売上高 6,111 百万円（5.0%増）が見込まれている。なお、第1四半期においては、「戦略製品1」として位置付けられている「キューインポット」で売上高 584 百万円（10.6%増）、「フィットフィックス」及び「バイロン」で売上高 904 百万円（5.5%増）である一方、2024年3月期に対する会社予想では、それぞれ、売上高 2,526 百万円（9.7%増）、売上高 3,584 百万円（1.9%増）が見込まれている。病院内感染防止に用いられる手術室用吸引器「フィットフィックス」の（コスト競争力に優れた）次世代製品が「バイロン」である一方、「キューインポット」は、「フィットフィックス」の仕組みを応用した病棟用吸引器である。

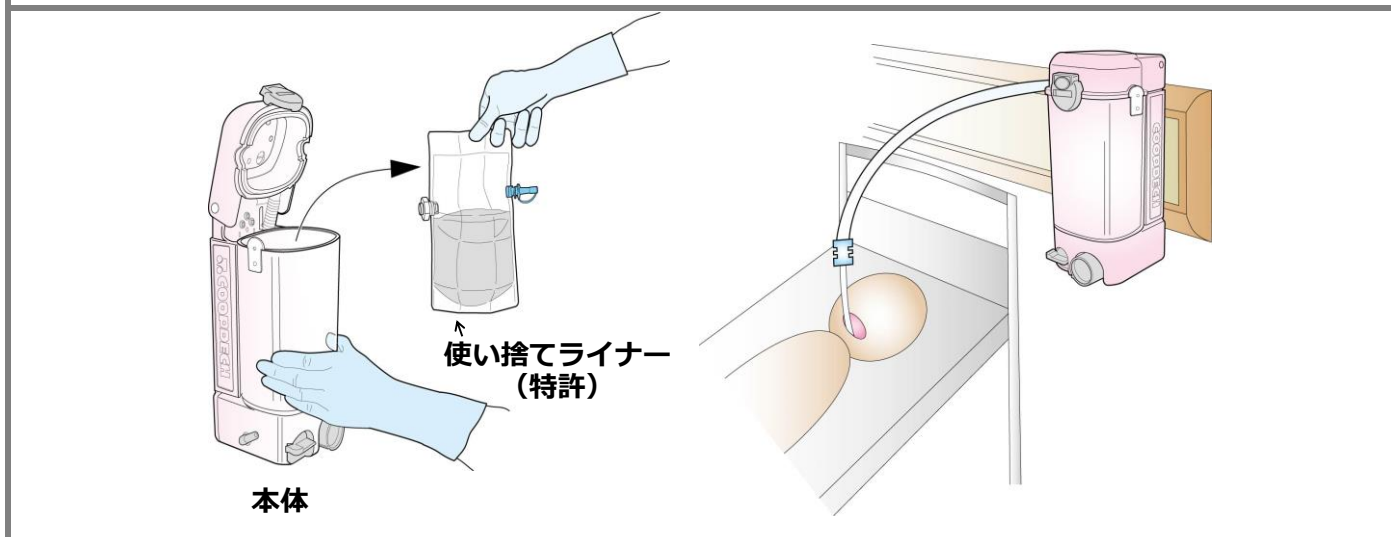


出所：会社データ

総数にして概ね 1,000 ほどにも及ぶ大病院に対して、同社は直接販売を展開しているとのことである。ただし、商流に関しては外部のいわゆる医療系の商社が担っているとのことである。「フィットフィックス」や「バイロン」に対する需要は、同社が製品を納入している急性期病院（病気の進行を止める／病気の回復が見込める目処をつける期間の医療を提供）における手術件数の多寡に依存している傾向が強いとされている一方、「キューインポット」に対する需要は、同社が製品を納入している慢性期病院（病気の進行が停滞している／病気が回復す過程にある期間の医療を提供）における採用比率の動向に依存している傾向が強い模様である。なお、「キューインポット」に関して同社は特許を有しており、国内の市場における占有率は、圧倒的な状況にあるとのことである。

コロナ禍による影響を経た後の手術件数は着実な増加傾向を示しており、これが「フィットフィックス」及び「バイロン」における増収に反映されている。一方、「キューインポット」のより大きな増収の背景は、上述の慢性期病院における採用比率の上昇であるとされている。そもそも「キューインポット」は、同社が製品を納入している急性期病院並びに慢性期病院の入院患者の誤飲性肺炎の予防などを目的とする口腔内での吸引を担っている。老化や脳血管障害の後遺症などによって、飲み込む機能（嚥下機能）や咳をする力が弱くなると、口腔内の細菌、食べかす、逆流した胃液などが誤って気管に入りやすくなるのだが、こういった対象物を事前に吸引して取り除くことで、ことなきを得るようにするのが「キューインポット」の使命である。

## 「キューインポット」：病棟用吸引器



出所：会社データ

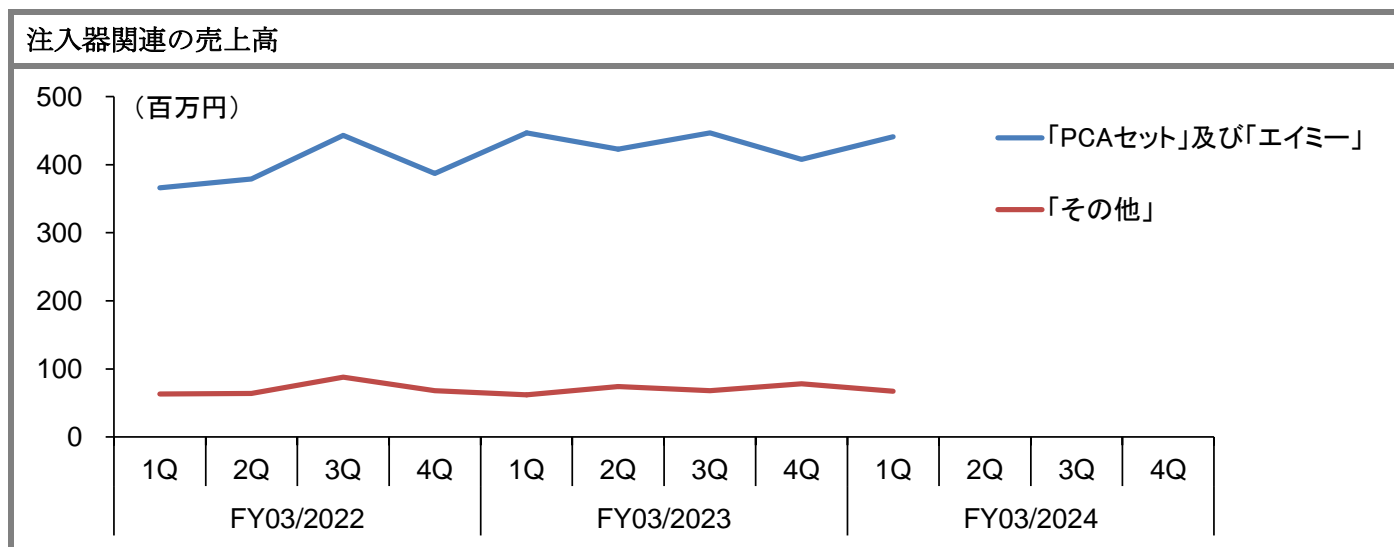
「フィットフィックス」が従来からの（リユースを前提とする）ガラス式吸引器を代替してきたのと同様に、ディスプレイ製品である「キューインポット」には、従来からの（リユースを前提とする）ガラス瓶を基盤とするスキームの代替を推進している側面が認められるとのことである。即ち、「キューインポット」に関しては、誤飲性肺炎を予防すると同時に病院内感染の脅威を低減させる働きもあることが高く評価されているとのことである。また、これをもって、入院患者の多くが継続的な誤飲性肺炎の予防などを必要とする慢性期病院において採用比率が上昇していることが、「キューインポット」の増収に大きく寄与しているとのことである。

同社が示唆するところによれば、ここでの市場開拓を始めたのは概ね2年ほど前とのことである。また、このアップサイドを積極的に開拓していくことを通して「キューインポット」の増収率を加速させていく方針とのことである。そして、これが同社の成長戦略「1）国内における横展開の推進」の内容のひとつである。同社によれば、急性期病院を300床以上の医療機関と定義し、慢性期病院を100床以上で300床未満の医療機関と定義した場合、前者における市場規模が概ね1,300百万円ほどであるのに対して、後者における市場規模は概ね3,700百万円ほどにも及ぶとのことである。

「フィットフィックス」に関しては、改良版の「バイロン」への移行を推進していくとのことである。同社が示唆するところによれば、2023年の後半に向けてこれを発売することが計画されている一方、2025年3月期に向けては、通期を通してここでの移行を徹底して進捗させるとのことである。「フィットフィックス」に対する既存の「バイロン」の優位性として挙げられているのは、ディスプレイで軽量なプラスチック製のボトルに関してコスト競争力がより強いことである。即ち、製造原価を抑えて同等か同等以上の機能性を有するボトルを製造することができることとされている。ただし、既存の「バイロン」においては、これまでになかった新たな付加価値として架台の部分に計量機能を追加していることから、ひとつのシステムとして導入する際の初期費用が大きくなったことを背景として拡販が滞り、先述の通り、同社は評価損の計上を余儀なくされている。これに鑑みた同社は、上述のボトルを、機能が徹底的に絞り込まれた安価な架台でも利用できるよう開発を進めている。

### 注入器関連（売上高構成比 21.5%）

第1四半期において売上高 508 百万円（0.2%減）での着地である一方、2024 年 3 月期に対する会社予想では売上高 2,124 百万円（5.8%増）が見込まれている。なお、第1四半期においては、主力の「PCA セット」及び「クーデックエイミーPCA」で売上高 441 百万円（1.3%減）である一方、2024 年 3 月期に対する会社予想では売上高 1,893 百万円（9.8%増）が見込まれている。また、マイクロポンプを搭載した新型薬液注入器「クーデックエイミーPCA」は、「戦略製品 2」として位置付けられている。現状に至る経緯における売上高の規模は限定的に留まっている模様なのだが、売上高の大きなトレンドとしては堅調な右肩上がりでの推移が引き続いているとされている。また、「その他」においては、「シリンジェクター」を単体で販売する際に発生する売上高が計上されている。



出所：会社データ

「PCA セット」においては、「シリンジェクター」と PCA 装置を併せて販売する際に発生する売上高が計上されている一方、「クーデックエイミーPCA」においては、これを構成するドライブユニット、薬液を入れるディスポーザブルバック、同社独自のキーテクノロジーに基づくマイクロポンプなどの売上高が計上されている。このマイクロポンプによる薬液を体内に注入するための駆動は圧電素子（Piezo element/圧力を加えることで電圧を発生したり、逆に電圧を加えることで変形したりするデバイス）が担っている。ここでの基本的な技術は従来から存在しているものなのだが、同社は、独自のキーテクノロジーをもって製造コストをかなり抑えたマイクロポンプの自社工場内での大量生産を実現しているとのことである。結果、薬液を入れるバックに加えて、これに付随して用いられるマイクロポンプのディスポーザブル化が達成されているとのことである。ただし、ドライブユニットに限っては、一般的な医療機器と同様にリユース製品とのことである。

一方、上述にある「キューインポット」の拡販に向けての施策に加えて、同社の成長戦略「1）国内における横展開の推進」のもうひとつの内容となっているのが、「クーデックエイミーPCA」による抗がん薬治療分野への新規参入である。2023 年 5 月 29 日、同社は、株式会社ジェイ・エム・エスと抗がん薬治療（化学療法）における業務提携契約を締結したことを明らかにしている。ここでは、同社の「クーデックエイミーPCA」と相手側の「ネオシールド」をはじめとする抗がん薬を安全に取り扱うためのデバイスを組み合わせることで、概ね 2,000 百万円ほどに相当するとされる市場において、新たな価値を創造していくことが標榜されている。

## 「クーデックエイミーPCA」：マイクロポンプを搭載した新型薬液注入器



出所：会社データ

そして、同社の成長戦略「2）海外市場への進出」の内容となっているのが、「クーデックエイミーPCA」の海外市場への投入である。同社が評価するところによれば、同社独自のキーテクノロジーを基盤としている「クーデックエイミーPCA」は、小型化／軽量化の度合いや単価、性能と、いずれにおいても同業他社の同等物との比較において優位性が認められるとされており、海外においても大きな拡販のポテンシャルがあるとされている。

12

国内における「クーデックエイミーPCA」は、術後疼痛管理の市場（概ね4,000百万円ほど）に加えて、上述の抗がん薬治療分野の市場（概ね2,000百万円ほど）にも対峙することになった一方、欧米においては、術後疼痛管理（局所麻酔）の市場だけで、その規模が概ね30,000百万円（北米で概ね18,000百万円ほど、欧州で概ね12,000百万円ほど）に及んでいることが示唆されている。また、近々にも欧州での販売開始に向けたMDR（Medical Device Regulation：欧州医療機器規則）の認定が取得できる見込みとのことである。更には、現地での販売チャネル構築に向けての準備も進捗させているとのことである。なお、同社は、本件に係る詳細が確定した段階においては、速やかにその内容を開示するとしている。

同社が示唆するところによれば、2024年に入った段階において臨床評価が始まる可能性があり、早ければ2025年3月期の期初より欧州での売上高を計上できる見込みとのことである。現状におけるマイクロポンプの生産能力は年間で概ね100万個ほどとのことである一方、欧州での需要を十分に満たすにはこれを概ね500万個ほど迄に引き上げていく必要があるとされている。同社は、需要の増加に伴い徐々に生産能力を引き上げていくとしている一方、そもそも限定的な投資額で増産を達成できるとのことで、急速な増産を想定しても減価償却費の急速な増加は発生しないとされている。なお、欧州に引き続いて、北米においても「クーデックエイミーPCA」を発売することが計画されている。

### 電動ポンプ関連（売上高構成比 2.8%）

第1四半期において売上高 66 百万円（56.5%増）での着地である一方、2024 年 3 月期に対する会社予想では売上高 317 百万円（27.6%増）が見込まれている。電動ポンプ関連においては、極めて微量の薬液を精密に制御しながら持続的に投与するために使用する、麻酔関連の医用電気機器の製造・販売が展開されている。主な製品として挙げられているのは、シリンジポンプや輸液ポンプである一方、同社は、両者を何台もまとめられるコンパクトな装置（ユナイター）の製造・販売も展開している。

### 手洗い設備関連（売上高構成比 6.8%）

第1四半期において売上高 159 百万円（2.8%増）での着地である一方、2024 年 3 月期に対する会社予想では売上高 582 百万円（0.4%減）が見込まれている。手洗い設備関連においては、手術室、集中治療室、病棟などにおいて医療従事者の衛生的な手洗いに使用される設備装置の製造・販売が展開されている。主な製品として挙げられているのは、ステリキープⅡ（水道配管設備に接続設置し、フィルターなどで濾過を行い、手洗い用の無菌水又は殺菌水を供給）とワイペル（摩擦による脱落繊維がほとんどないため繊維が手に残らない、安全面が考慮されている滅菌済みのディスポーザブルタオル）である。

### その他（売上高構成比 5.8%）

第1四半期において売上高 137 百万円（34.1%増）での着地である一方、2024 年 3 月期に対する会社予想では売上高 463 百万円（2.1%減）が見込まれている。その他においては、上述の 4 つの製品群に分類されない製品の製造・販売が展開されている。主な製品として挙げられているのは、ブレスウォーム（手術室やその他処置室で患者の身体の一部を保護するために使用される不織布オイフ）、気管支ブロッカーチューブ（胸部外科手術を行う際の分離肺換気を目的に使用されるカテーテル）、ダブルルーメン気管支チューブ（呼吸器外科手術などの際に分離肺換気を目的に使用されるチューブ）、以上である。

## 損益計算書（四半期累計／四半期）

損益計算書 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	前年比 純増減
	1Q 03/2023	2Q累計 03/2023	3Q累計 03/2023	4Q累計 03/2023	1Q 03/2024	2Q累計 03/2024	3Q累計 03/2024	4Q累計 03/2024		
<b>売上高</b>	<b>2,196</b>	<b>4,454</b>	<b>6,896</b>	<b>9,137</b>	<b>2,361</b>	-	-	-	-	<b>+165</b>
売上原価	1,282	2,613	4,055	5,606	1,403	-	-	-	-	+121
売上総利益	914	1,841	2,840	3,530	958	-	-	-	-	+43
販売費及び一般管理費	626	1,236	1,870	2,475	618	-	-	-	-	(7)
<b>営業利益</b>	<b>288</b>	<b>605</b>	<b>969</b>	<b>1,054</b>	<b>339</b>	-	-	-	-	<b>+51</b>
営業外損益	0	0	(0)	(0)	2	-	-	-	-	+2
<b>経常利益</b>	<b>288</b>	<b>605</b>	<b>968</b>	<b>1,053</b>	<b>341</b>	-	-	-	-	<b>+53</b>
特別損益	0	(0)	(0)	(28)	(0)	-	-	-	-	(0)
税金等調整前純利益	288	604	968	1,025	341	-	-	-	-	+53
法人税等合計	85	175	280	312	97	-	-	-	-	+11
<b>純利益</b>	<b>202</b>	<b>429</b>	<b>688</b>	<b>712</b>	<b>244</b>	-	-	-	-	<b>+42</b>
売上高伸び率	+11.1%	+9.0%	+7.4%	+7.0%	+7.5%	-	-	-	-	-
営業利益伸び率	+15.7%	+7.0%	+3.9%	(8.4%)	+17.8%	-	-	-	-	-
経常利益伸び率	+15.5%	+7.0%	+3.8%	(8.6%)	+18.7%	-	-	-	-	-
純利益伸び率	+14.8%	+7.3%	+3.9%	(14.3%)	+21.0%	-	-	-	-	-
売上総利益率	41.6%	41.3%	41.2%	38.6%	40.6%	-	-	-	-	(1.0%)
売上高販売管理費率	28.5%	27.8%	27.1%	27.1%	26.2%	-	-	-	-	(2.3%)
営業利益率	13.1%	13.6%	14.1%	11.5%	14.4%	-	-	-	-	+1.3%
経常利益率	13.1%	13.6%	14.0%	11.5%	14.5%	-	-	-	-	+1.4%
純利益率	9.2%	9.6%	10.0%	7.8%	10.4%	-	-	-	-	+1.2%
法人税等合計／税金等調整前純利益	29.8%	29.0%	29.0%	30.5%	28.4%	-	-	-	-	(1.4%)

損益計算書 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	前年比 純増減
	1Q 03/2023	2Q 03/2023	3Q 03/2023	4Q 03/2023	1Q 03/2024	2Q 03/2024	3Q 03/2024	4Q 03/2024		
<b>売上高</b>	<b>2,196</b>	<b>2,258</b>	<b>2,441</b>	<b>2,240</b>	<b>2,361</b>	-	-	-	-	<b>+165</b>
売上原価	1,282	1,330	1,442	1,551	1,403	-	-	-	-	+121
売上総利益	914	927	998	689	958	-	-	-	-	+43
販売費及び一般管理費	626	610	634	604	618	-	-	-	-	(7)
<b>営業利益</b>	<b>288</b>	<b>317</b>	<b>364</b>	<b>84</b>	<b>339</b>	-	-	-	-	<b>+51</b>
営業外損益	0	(0)	(0)	0	2	-	-	-	-	+2
<b>経常利益</b>	<b>288</b>	<b>316</b>	<b>363</b>	<b>84</b>	<b>341</b>	-	-	-	-	<b>+53</b>
特別損益	0	(0)	0	(28)	(0)	-	-	-	-	(0)
税金等調整前純利益	288	316	363	56	341	-	-	-	-	+53
法人税等合計	85	89	105	32	97	-	-	-	-	+11
<b>純利益</b>	<b>202</b>	<b>226</b>	<b>258</b>	<b>23</b>	<b>244</b>	-	-	-	-	<b>+42</b>
売上高伸び率	+11.1%	+7.1%	+4.6%	+5.7%	+7.5%	-	-	-	-	-
営業利益伸び率	+15.7%	+0.2%	(1.0%)	(61.0%)	+17.8%	-	-	-	-	-
経常利益伸び率	+15.5%	+0.3%	(1.2%)	(61.3%)	+18.7%	-	-	-	-	-
純利益伸び率	+14.8%	+1.3%	(1.2%)	(85.8%)	+21.0%	-	-	-	-	-
売上総利益率	41.6%	41.1%	40.9%	30.8%	40.6%	-	-	-	-	(1.1%)
売上高販売管理費率	28.5%	27.0%	26.0%	27.0%	26.2%	-	-	-	-	(2.3%)
営業利益率	13.1%	14.0%	14.9%	3.8%	14.4%	-	-	-	-	+1.2%
経常利益率	13.1%	14.0%	14.9%	3.8%	14.5%	-	-	-	-	+1.4%
純利益率	9.2%	10.0%	10.6%	1.1%	10.4%	-	-	-	-	+1.2%
法人税等合計／税金等調整前純利益	29.8%	28.4%	28.9%	57.4%	28.4%	-	-	-	-	(1.4%)

出所：会社データ、弊社計算

製品群別売上高（四半期累計／四半期）

製品群別売上高 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	前年比 純増減
	1Q 03/2023	2Q累計 03/2023	3Q累計 03/2023	4Q累計 03/2023	1Q 03/2024	2Q累計 03/2024	3Q累計 03/2024	4Q累計 03/2024		
吸引器関連	1,385	2,852	4,441	5,820	1,488	-	-	-	-	+103
注入器関連	509	1,007	1,522	2,008	508	-	-	-	-	(1)
電動ポンプ関連	42	90	151	248	66	-	-	-	-	+24
手洗い設備関連	155	289	425	585	159	-	-	-	-	+4
その他	102	216	354	473	137	-	-	-	-	+35
<b>売上高</b>	<b>2,196</b>	<b>4,454</b>	<b>6,896</b>	<b>9,137</b>	<b>2,361</b>	-	-	-	-	<b>+165</b>
吸引器関連	+6.4%	+6.5%	+6.3%	+5.5%	+7.4%	-	-	-	-	-
注入器関連	+18.8%	+15.3%	+8.4%	+8.0%	(0.2%)	-	-	-	-	-
電動ポンプ関連	(10.1%)	(15.0%)	(8.2%)	+18.4%	+56.5%	-	-	-	-	-
手洗い設備関連	+31.0%	+5.8%	+5.4%	+2.4%	+2.8%	-	-	-	-	-
その他	+29.5%	+38.6%	+32.7%	+23.8%	+34.1%	-	-	-	-	-
<b>売上高(前年比)</b>	<b>+11.1%</b>	<b>+9.0%</b>	<b>+7.4%</b>	<b>+7.0%</b>	<b>+7.5%</b>	-	-	-	-	-
吸引器関連	63.1%	64.0%	64.4%	63.7%	63.0%	-	-	-	-	-
注入器関連	23.2%	22.6%	22.1%	22.0%	21.5%	-	-	-	-	-
電動ポンプ関連	1.9%	2.0%	2.2%	2.7%	2.8%	-	-	-	-	-
手洗い設備関連	7.1%	6.5%	6.2%	6.4%	6.8%	-	-	-	-	-
その他	4.7%	4.9%	5.1%	5.2%	5.8%	-	-	-	-	-
<b>売上高(構成比)</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	-	-	-	-	-

製品群別売上高 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	前年比 純増減
	1Q 03/2023	2Q 03/2023	3Q 03/2023	4Q 03/2023	1Q 03/2024	2Q 03/2024	3Q 03/2024	4Q 03/2024		
吸引器関連	1,385	1,466	1,589	1,378	1,488	-	-	-	-	+103
注入器関連	509	497	515	486	508	-	-	-	-	(1)
電動ポンプ関連	42	47	61	97	66	-	-	-	-	+24
手洗い設備関連	155	133	136	159	159	-	-	-	-	+4
その他	102	113	137	119	137	-	-	-	-	+35
<b>売上高</b>	<b>2,196</b>	<b>2,258</b>	<b>2,441</b>	<b>2,240</b>	<b>2,361</b>	-	-	-	-	<b>+165</b>
吸引器関連	+6.4%	+6.6%	+5.9%	+3.2%	+7.4%	-	-	-	-	-
注入器関連	+18.8%	+12.0%	(3.1%)	+6.7%	(0.2%)	-	-	-	-	-
電動ポンプ関連	(10.1%)	(18.9%)	+3.7%	+116.4%	+56.5%	-	-	-	-	-
手洗い設備関連	+31.0%	(13.5%)	+4.7%	(4.8%)	+2.8%	-	-	-	-	-
その他	+29.5%	+48.0%	+24.3%	+3.4%	+34.1%	-	-	-	-	-
<b>売上高(前年比)</b>	<b>+11.1%</b>	<b>+7.1%</b>	<b>+4.6%</b>	<b>+5.7%</b>	<b>+7.5%</b>	-	-	-	-	-
吸引器関連	63.1%	64.9%	65.1%	61.5%	63.0%	-	-	-	-	-
注入器関連	23.2%	22.0%	21.1%	21.7%	21.5%	-	-	-	-	-
電動ポンプ関連	1.9%	2.1%	2.5%	4.3%	2.8%	-	-	-	-	-
手洗い設備関連	7.1%	5.9%	5.6%	7.1%	6.8%	-	-	-	-	-
その他	4.7%	5.0%	5.7%	5.3%	5.8%	-	-	-	-	-
<b>売上高(構成比)</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	-	-	-	-	-

出所：会社データ、弊社計算

## 貸借対照表（四半期）

貸借対照表 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	前年比 純増減
	1Q 03/2023	2Q 03/2023	3Q 03/2023	4Q 03/2023	1Q 03/2024	2Q 03/2024	3Q 03/2024	4Q 03/2024		
現金及び預金	2,331	2,282	2,072	2,516	2,488	-	-	-	-	+157
受取手形及び売掛金	2,442	2,505	2,675	2,530	2,504	-	-	-	-	+61
たな卸資産	1,568	1,654	1,673	1,514	1,567	-	-	-	-	(0)
その他	114	86	153	77	101	-	-	-	-	(12)
<b>流動資産</b>	<b>6,457</b>	<b>6,529</b>	<b>6,574</b>	<b>6,638</b>	<b>6,662</b>	-	-	-	-	<b>+205</b>
有形固定資産	4,074	4,085	4,078	4,070	4,056	-	-	-	-	(18)
無形固定資産	13	11	11	9	8	-	-	-	-	(4)
投資その他の資産合計	213	212	225	295	294	-	-	-	-	+81
<b>固定資産</b>	<b>4,301</b>	<b>4,310</b>	<b>4,314</b>	<b>4,374</b>	<b>4,359</b>	-	-	-	-	<b>+58</b>
<b>資産合計</b>	<b>10,758</b>	<b>10,840</b>	<b>10,889</b>	<b>11,013</b>	<b>11,022</b>	-	-	-	-	<b>+263</b>
支払手形及び買掛金	999	1,045	1,203	1,175	1,173	-	-	-	-	+174
短期借入金	1,200	1,200	1,200	1,000	1,200	-	-	-	-	0
1年内返済予定の長期借入金	495	419	588	659	659	-	-	-	-	+164
その他	501	480	496	533	536	-	-	-	-	+35
<b>流動負債</b>	<b>3,196</b>	<b>3,145</b>	<b>3,488</b>	<b>3,369</b>	<b>3,569</b>	-	-	-	-	<b>+373</b>
長期借入金	1,185	1,090	795	1,013	898	-	-	-	-	(286)
その他	40	38	35	33	25	-	-	-	-	(15)
<b>固定負債</b>	<b>1,225</b>	<b>1,128</b>	<b>830</b>	<b>1,046</b>	<b>924</b>	-	-	-	-	<b>(301)</b>
<b>負債合計</b>	<b>4,422</b>	<b>4,273</b>	<b>4,319</b>	<b>4,416</b>	<b>4,493</b>	-	-	-	-	<b>+71</b>
<b>株主資本</b>	<b>6,325</b>	<b>6,552</b>	<b>6,552</b>	<b>6,576</b>	<b>6,505</b>	-	-	-	-	<b>+179</b>
その他合計	10	14	17	20	23	-	-	-	-	+12
<b>純資産</b>	<b>6,336</b>	<b>6,566</b>	<b>6,569</b>	<b>6,597</b>	<b>6,528</b>	-	-	-	-	<b>+192</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,758</b>	<b>10,840</b>	<b>10,889</b>	<b>11,013</b>	<b>11,022</b>	-	-	-	-	<b>+263</b>
自己資本	6,325	6,552	6,552	6,576	6,505	-	-	-	-	+180
有利子負債	2,880	2,709	2,583	2,673	2,758	-	-	-	-	(122)
ネットデット	549	427	510	157	269	-	-	-	-	(279)
自己資本比率	58.8%	60.4%	60.2%	59.7%	59.0%	-	-	-	-	-
ネットデットエクイティ比率	8.7%	6.5%	7.8%	2.4%	4.1%	-	-	-	-	-
ROE(12ヵ月)	13.9%	13.4%	13.4%	10.9%	11.8%	-	-	-	-	-
ROA(12ヵ月)	11.1%	11.0%	11.0%	9.6%	10.2%	-	-	-	-	-
在庫回転日数	111	113	105	89	101	-	-	-	-	-
当座比率	149%	152%	136%	150%	140%	-	-	-	-	-
流動比率	202%	208%	188%	197%	187%	-	-	-	-	-

出所：会社データ、弊社計算

## キャッシュフロー計算書（四半期累計）

キャッシュフロー計算書 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	前年比 純増減
	1Q 03/2023	2Q累計 03/2023	3Q累計 03/2023	4Q累計 03/2023	1Q 03/2024	2Q累計 03/2024	3Q累計 03/2024	4Q累計 03/2024		
営業活動によるキャッシュフロー	-	348	-	989	-	-	-	-	-	-
投資活動によるキャッシュフロー	-	(104)	-	(210)	-	-	-	-	-	-
<b>営業活動によるCF+投資活動によるCF</b>	<b>-</b>	<b>244</b>	<b>-</b>	<b>778</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>
財務活動によるキャッシュフロー	-	(480)	-	(781)	-	-	-	-	-	-

出所：会社データ、弊社計算



## 2024年3月期会社予想

2024年3月期に対する会社予想（公表：2023年5月15日）は据え置かれている。売上高 9,600 百万円（前年比 5.1%増）、営業利益 1,300 百万円（23.3%増）、経常利益 1,300 百万円（23.4%増）、当期純利益 900 百万円（26.4%増）の見通しである。また、営業利益率 13.5%（2.0%ポイント上昇）の見通しである。

一方、年間配当金予定 20.00 円（配当性向 63.8%）である。同社は、「配当性向 60%以上」を目処とする「安定的かつ積極的な利益還元」の実施を標榜しているのだが、過去 5 年間（2019 年 3 月期～2023 年 3 月期）と同様に、2024 年 3 月期においてもこれが達成される見通しである。過去 5 年間においては、年間配当金 20.00 円が継続的に実施されている一方、いずれの年度においても配当性向が 60%を超過している。

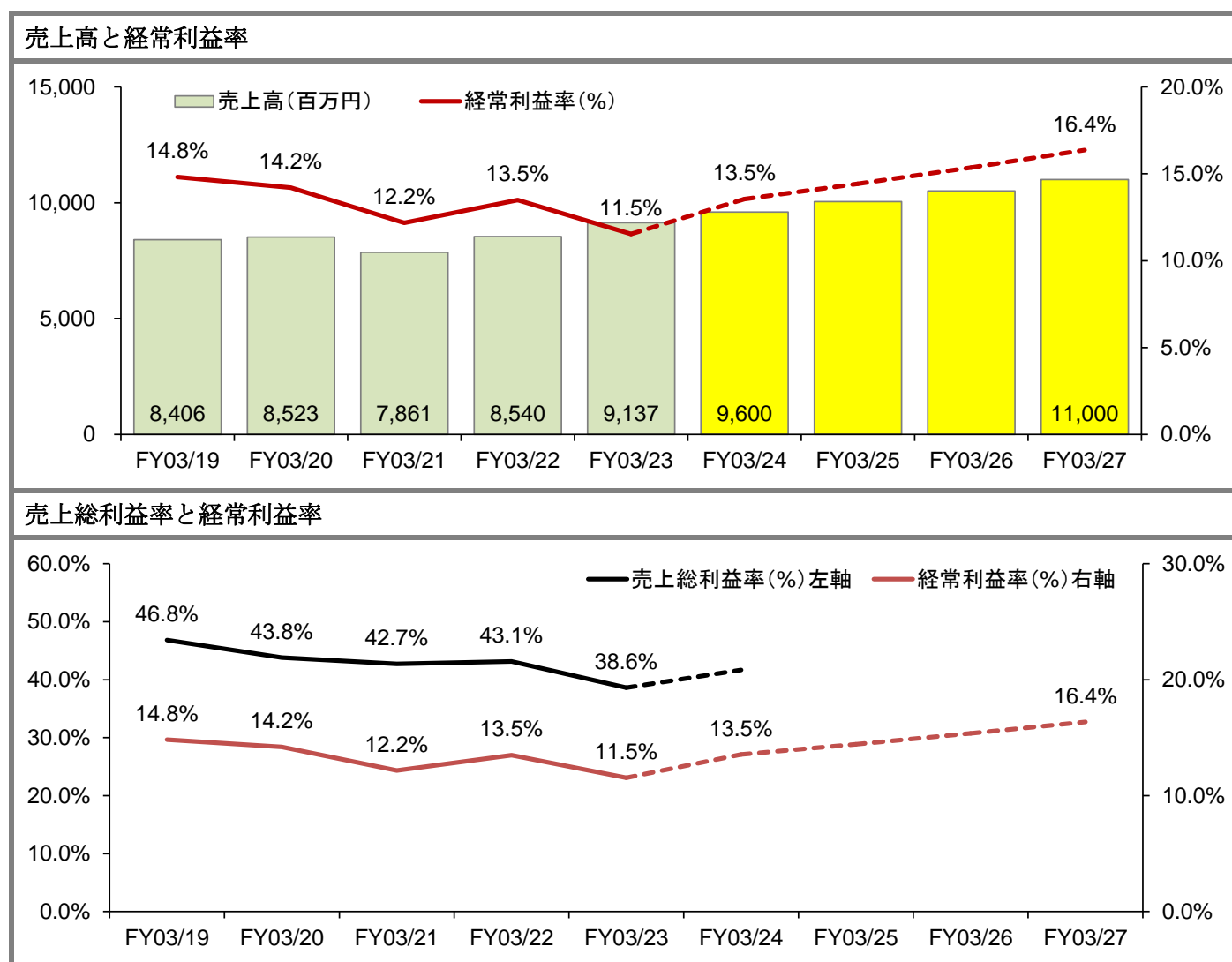
### 2024年3月期に対する会社予想

通期（非連結） （百万円）	発表日	イベント	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
FY03/2024会予	2023年5月15日	4Q決算発表	9,600	1,300	1,300	900
FY03/2024会予	2023年7月31日	1Q決算発表	9,600	1,300	1,300	900
		増減額	0	0	0	0
		増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
FY03/2024会予	2023年5月15日	4Q決算発表	9,600	1,300	1,300	900
FY03/2024会予	2023年7月31日	1Q決算発表	9,600	1,300	1,300	900
		増減額	0	0	0	0
		増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
半期（非連結） （百万円）	発表日	イベント	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
1Q-2Q FY03/2024会予	2023年5月15日	4Q決算発表	4,650	550	550	380
1Q-2Q FY03/2024会予	2023年7月31日	1Q決算発表	4,650	550	550	380
		増減額	0	0	0	0
		増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
1Q-2Q FY03/2024会予	2023年5月15日	4Q決算発表	4,650	550	550	380
1Q-2Q FY03/2024会予	2023年7月31日	1Q決算発表	4,650	550	550	380
		増減額	0	0	0	0
		増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
半期（非連結） （百万円）	発表日	イベント	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
3Q-4Q FY03/2024会予	2023年5月15日	4Q決算発表	4,950	750	750	520
3Q-4Q FY03/2024会予	2023年7月31日	1Q決算発表	4,950	750	750	520
		増減額	0	0	0	0
		増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3Q-4Q FY03/2024会予	2023年5月15日	4Q決算発表	4,950	750	750	520
3Q-4Q FY03/2024会予	2023年7月31日	1Q決算発表	4,950	750	750	520
		増減額	0	0	0	0
		増減率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

出所：会社データ、弊社計算

## 中長期業績見通し

2021年12月24日、同社は、2027年3月期に対して売上高11,000百万円、経常利益1,800百万円、当期純利益1,260百万円を達成することを業績目標として掲げている。2023年3月期の実績を起点とした場合の年平均成長率は、売上高で4.7%、経常利益で14.3%、当期純利益で15.3%である。また、当該期間における経常利益率は、11.5%から16.4%へと4.8%ポイント上昇することになる。なお、同社の業績推移においては、営業外損益の動向によるインパクトが限定的に留まっており、営業利益（率）と経常利益（率）の推移における格差も限定的に留まっている。過去5年間（2019年3月期～2023年3月期）における営業外損益の下限值及び上限値は、それぞれ、▲3百万円、36百万円である。



出所：会社データ、弊社計算

同社としての売上総利益率は、2023年3月期をボトムとしてV字回復を続ける見通しである。2024年3月期に向けては、先述にある一過性のマイナス要因がなくなることが寄与する。そして、2025年3月期及びそれ以降に向けては、セールスマックスの向上が引き続き方向性にあるとされている。即ち、過去数年間における研究開発の成果である（相対的に売上総利益率が高い）新製品の売上高が拡大を続けることとされている一方、（競争激化を経て売上総利益率が相対的に低くなっている）「フィットフィックス」を中心とする既存製品の売上高が低減していく方向性にあることが示唆されている。同社によれば、同社の業績は、2023年3月期を起点とする、持続的な右肩上がりの推移を達成していくフェーズに突入しているとのことである。

なお、[2023年9月15日付けの開示](#)において、同社は、本レポートで言及しているそれぞれの成長戦略の実現や基礎研究の強化及び刷新を通じた盤石な経営基盤の確立に向けて、人材資本投資を強力に推進していくことを明らかにしている。ただし、2023年3月末時点においては、流通株式時価総額がプライム市場の上場維持基準を満たしていないことなどからスタンダード市場への選択申請を行うことも明らかにしている。同社株式の取引は、2023年10月20日よりプライム市場からスタンダード市場へと移行する予定である。

現状においては、先述にある通り、中長期的な業績目標に対してそれぞれの成長戦略による定量的な寄与を具体的に織り込むにはいましばらくの時間を要するとされているのだが、一定の時間が経過した段階においては、新たに中長期経営計画を開示するとのことである。また、ここでの業績目標を着実に達成していくことを通して飛躍的な企業価値の向上を実現し、これをもってプライム市場の上場維持基準を安定的かつ継続的に充足することで、プライム市場へ再上場することを計画しているとのことである。代表取締役社長である山田圭一氏は、以上の達成に向けてコミットしていくとしている。

## 5.0 財務諸表

### 損益計算書

損益計算書 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体予想	前年比 純増減
	通期 03/2019	通期 03/2020	通期 03/2021	通期 03/2022	通期 03/2023	通期 03/2024	
<b>売上高</b>	<b>8,406</b>	<b>8,523</b>	<b>7,861</b>	<b>8,540</b>	<b>9,137</b>	<b>9,600</b>	<b>+462</b>
売上原価	4,468	4,789	4,502	4,856	5,606	-	-
売上総利益	3,937	3,733	3,359	3,683	3,530	-	-
販売費及び一般管理費	2,688	2,539	2,437	2,533	2,475	-	-
<b>営業利益</b>	<b>1,249</b>	<b>1,194</b>	<b>921</b>	<b>1,150</b>	<b>1,054</b>	<b>1,300</b>	<b>+245</b>
営業外損益	(3)	15	36	1	(0)	0	+0
<b>経常利益</b>	<b>1,245</b>	<b>1,210</b>	<b>957</b>	<b>1,152</b>	<b>1,053</b>	<b>1,300</b>	<b>+246</b>
特別損益	(92)	(18)	(12)	(1)	(28)	-	-
税金等調整前純利益	1,153	1,191	944	1,151	1,025	-	-
法人税等合計	302	331	269	320	312	-	-
<b>純利益</b>	<b>851</b>	<b>859</b>	<b>675</b>	<b>831</b>	<b>712</b>	<b>900</b>	<b>+187</b>
売上高伸び率	(2.1%)	+1.4%	(7.8%)	+8.6%	+7.0%	+5.1%	-
営業利益伸び率	(17.0%)	(4.4%)	(22.9%)	+24.9%	(8.4%)	+23.3%	-
経常利益伸び率	(17.2%)	(2.9%)	(20.9%)	+20.4%	(8.6%)	+23.4%	-
純利益伸び率	(15.9%)	+0.9%	(21.4%)	+23.1%	(14.3%)	+26.4%	-
売上総利益率	46.8%	43.8%	42.7%	43.1%	38.6%	-	-
売上高販売管理費率	32.0%	29.8%	31.0%	29.7%	27.1%	-	-
営業利益率	14.9%	14.0%	11.7%	13.5%	11.5%	13.5%	+2.0%
経常利益率	14.8%	14.2%	12.2%	13.5%	11.5%	13.5%	+2.0%
純利益率	10.1%	10.1%	8.6%	9.7%	7.8%	9.4%	+1.6%
法人税等合計／税金等調整前純利益	26.2%	27.8%	28.5%	27.8%	30.5%	-	-

出所: 会社データ、弊社計算

### 製品群別売上高

製品群別売上高 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体予想	前年比 純増減
	通期 03/2019	通期 03/2020	通期 03/2021	通期 03/2022	通期 03/2023	通期 03/2024	
吸引器関連	5,489	5,434	5,128	5,515	5,820	6,111	+290
注入器関連	1,985	1,985	1,690	1,860	2,008	2,124	+115
電動ポンプ関連	110	153	181	210	248	317	+68
手洗い設備関連	511	618	547	571	585	582	(3)
その他	309	331	314	382	473	463	(10)
<b>売上高</b>	<b>8,406</b>	<b>8,523</b>	<b>7,861</b>	<b>8,540</b>	<b>9,137</b>	<b>9,600</b>	<b>+462</b>
吸引器関連	(0.9%)	(1.0%)	(5.6%)	+7.6%	+5.5%	+5.0%	-
注入器関連	(3.5%)	+0.0%	(14.9%)	+10.0%	+8.0%	+5.8%	-
電動ポンプ関連	(24.1%)	+38.9%	+18.1%	+15.9%	+18.4%	+27.6%	-
手洗い設備関連	(12.4%)	+20.9%	(11.5%)	+4.4%	+2.4%	(0.4%)	-
その他	+20.9%	+7.0%	(5.1%)	+21.7%	+23.8%	(2.1%)	-
<b>売上高(前年比)</b>	<b>(2.1%)</b>	<b>+1.4%</b>	<b>(7.8%)</b>	<b>+8.6%</b>	<b>+7.0%</b>	<b>+5.1%</b>	<b>-</b>
吸引器関連	65.3%	63.8%	65.2%	64.6%	63.7%	63.7%	-
注入器関連	23.6%	23.3%	21.5%	21.8%	22.0%	22.1%	-
電動ポンプ関連	1.3%	1.8%	2.3%	2.5%	2.7%	3.3%	-
手洗い設備関連	6.1%	7.3%	7.0%	6.7%	6.4%	6.1%	-
その他	3.7%	3.9%	4.0%	4.4%	5.2%	4.8%	-
<b>売上高(構成比)</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>	<b>-</b>

出所: 会社データ、弊社計算

## 貸借対照表

貸借対照表 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体予想	前年比 純増減
	通期 03/2019	通期 03/2020	通期 03/2021	通期 03/2022	通期 03/2023	通期 03/2024	
現金及び預金	2,217	2,365	2,170	2,518	2,516	-	-
受取手形及び売掛金	2,594	2,726	2,587	2,431	2,530	-	-
たな卸資産	1,499	1,173	1,421	1,544	1,514	-	-
その他	34	139	92	77	77	-	-
<b>流動資産</b>	<b>6,346</b>	<b>6,404</b>	<b>6,272</b>	<b>6,572</b>	<b>6,638</b>	-	-
有形固定資産	4,275	4,300	4,225	4,119	4,070	-	-
無形固定資産	32	29	21	15	9	-	-
投資その他の資産合計	317	263	233	213	295	-	-
<b>固定資産</b>	<b>4,624</b>	<b>4,593</b>	<b>4,480</b>	<b>4,348</b>	<b>4,374</b>	-	-
<b>資産合計</b>	<b>10,970</b>	<b>10,997</b>	<b>10,752</b>	<b>10,920</b>	<b>11,013</b>	-	-
支払手形及び買掛金	836	966	957	1,003	1,117	-	-
短期借入金	1,100	800	1,000	1,000	1,000	-	-
1年内返済予定の長期借入金	803	898	704	597	659	-	-
その他	964	1,118	685	549	592	-	-
<b>流動負債</b>	<b>3,705</b>	<b>3,782</b>	<b>3,347</b>	<b>3,151</b>	<b>3,369</b>	-	-
長期借入金	1,459	1,091	1,177	1,280	1,013	-	-
その他	37	41	45	43	33	-	-
<b>固定負債</b>	<b>1,497</b>	<b>1,133</b>	<b>1,223</b>	<b>1,323</b>	<b>1,046</b>	-	-
<b>負債合計</b>	<b>5,203</b>	<b>4,916</b>	<b>4,570</b>	<b>4,474</b>	<b>4,416</b>	-	-
<b>株主資本</b>	<b>5,767</b>	<b>6,081</b>	<b>6,182</b>	<b>6,438</b>	<b>6,576</b>	-	-
その他合計	-	-	-	7	20	-	-
<b>純資産</b>	<b>5,767</b>	<b>6,081</b>	<b>6,182</b>	<b>6,446</b>	<b>6,597</b>	-	-
<b>負債純資産合計</b>	<b>10,970</b>	<b>10,997</b>	<b>10,752</b>	<b>10,920</b>	<b>11,013</b>	-	-
自己資本	5,767	6,081	6,182	6,438	6,576	-	-
有利子負債	3,363	2,789	2,881	2,877	2,673	-	-
ネットデット	1,146	424	711	359	157	-	-
自己資本比率	52.6%	55.3%	57.5%	59.0%	59.7%	-	-
ネットデットエクイティ比率	19.9%	7.0%	11.5%	5.6%	2.4%	-	-
ROE(12ヵ月)	13.7%	14.5%	11.0%	13.2%	10.9%	-	-
ROA(12ヵ月)	11.3%	11.0%	8.8%	10.6%	9.6%	-	-
在庫回転日数	122	89	115	116	98	-	-
当座比率	130%	135%	142%	157%	150%	-	-
流動比率	171%	169%	187%	209%	197%	-	-

出所: 会社データ、弊社計算

## キャッシュフロー計算書

キャッシュフロー計算書 (百万円)	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体実績	単体予想	前年比 純増減
	通期 03/2019	通期 03/2020	通期 03/2021	通期 03/2022	通期 03/2023	通期 03/2024	
営業活動によるキャッシュフロー	880	1,436	609	1,133	989	-	-
投資活動によるキャッシュフロー	(208)	(160)	(311)	(196)	(210)	-	-
<b>営業活動によるCF+投資活動によるCF</b>	<b>672</b>	<b>1,276</b>	<b>297</b>	<b>937</b>	<b>778</b>	-	-
財務活動によるキャッシュフロー	(822)	(1,128)	(492)	(589)	(781)	-	-

出所: 会社データ、弊社計算

## 1株当たりデータ

1株当たりデータ (株式分割調整前) (円)	単体実績 通期 03/2019	単体実績 通期 03/2020	単体実績 通期 03/2021	単体実績 通期 03/2022	単体実績 通期 03/2023	単体予想 通期 03/2024	前年比 純増減
期末発行済株式数(千株)	31,840	31,840	31,840	31,840	31,840	-	-
当期純利益/EPS(千株)	29,315	28,728	28,733	28,726	28,724	-	-
期末自己株式数(千株)	3,112	3,112	3,112	3,112	3,112	-	-
1株当たり当期純利益 (潜在株式調整後)	29.05	29.92	23.50	28.93	24.79	31.33	-
1株当たり純資産	200.77	211.69	215.20	224.13	228.91	-	-
1株当たり配当金	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	-
1株当たりデータ (株式分割調整後) (円)	単体実績 通期 03/2019	単体実績 通期 03/2020	単体実績 通期 03/2021	単体実績 通期 03/2022	単体実績 通期 03/2023	単体予想 通期 03/2024	前年比 純増減
株式分割ファクター	1	1	1	1	1	1	-
1株当たり当期純利益	29.05	29.92	23.50	28.93	24.79	31.33	-
1株当たり純資産	200.77	211.69	215.20	224.13	228.91	-	-
1株当たり配当金	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	-
配当性向	68.8%	66.8%	85.1%	69.1%	80.7%	63.8%	-

出所: 会社データ、弊社計算

### Disclaimer

ここでの情報は、ウォールデンリサーチジャパンが当該事業会社の発信する「IR情報」を中立的かつ専門的な立場から要約して、レポート形式にまとめたものである。「IR情報」とは、即ち、当該事業会社に係る①弊社との個別取材の内容、②機関投資家向け説明会の内容、③適時開示情報、④ホームページの内容などである。

商号： 株式会社ウォールデンリサーチジャパン

本店所在地： 〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目14番8号 銀座石井ビル4階

URL： <https://walden.co.jp/>

E-mail： [info@walden.co.jp](mailto:info@walden.co.jp)

Tel: 03-3553-3769